

発表タイトル	北東アジア安全保障体制の構築 ～欧州安全保障協力会議（CSCE）プロセスからの考察～
大学名	東北公益文科大学
指導教員名	玉井雅隆（たまい まさたか）准教授
学生名	中條紘大（なかじょう ひろと）

プレゼンテーション要旨

1 これから発表を始めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

2 本日は「北東アジアの安全保障体制をどのように構築すべきか」という内容についてお話ししていきたいと思えます。

3 まず、現在の北東アジアの状況についてです。この地域は日中の漁船衝突事件による対立など、大規模な紛争とはならなくても偶発的な軍事衝突の危険性がある地域と言えます。北東アジアは巨大な経済圏であり、偶発的な衝突などによる地域の不安定化は世界経済にとって極めてマイナスな要素であり、この地域の安定化は重要な課題であります。したがって今回は北東アジアの未来像として欧州安全保障協力会議（CSCE）プロセスの事例を参考に北東アジアの安全保障体制をどのように築いていくべきか考察していきます。

4 CSCE は冷戦期に東西陣営間の緊張緩和のために開かれた全欧州の安全保障会議です。この会議で採択された「ヘルシンキ最終議定書」では、東西陣営間の軍事的な相互不信を緩和するための「信頼醸成措置」が導入され、大規模な軍事演習の参加国への事前通告義務といった内容が決定されました。その後のストックホルム軍縮会議で軍事活動・軍事演習へのオブザーバー招待義務付け等、ウィーン会議で「異常な軍事活動に関する協議・協力メカニズム」等が取り決められました。以上のような信頼醸成措置の導入により欧州では軍事面における信頼関係が構築され、偶発的な軍事衝突の危険性は極めて低くなりました。

5 現在の北東アジア各国の関係性は冷戦期のような対立構造が今も残存しており、偶発的な軍事衝突の危険性も存在しています。しかしながら個別的な軍事協力や衝突回避の措置などを見てみると、日中間の「日中防衛当局間の海空連絡メカニズム」等があり中国に関しては近年空海域における不測の事態を回避・防止するための取り組みに関心を示しています。さらには「北東アジア安全保障に関するウランバートル対話」のような多国間の外交フォーラムも存在しており、このように個別的な措置や外交フォーラム等は存在していますが、北東アジアのすべての国を包括するような安全保障メカニズムは残念ながら存在していません。

6そこで、ここ北東アジア6か国に在日米軍等、この地域で重要な役割を果たすアメリカも加えた7か国による「北東アジア安全保障会議」を開催し、信頼醸成措置を導入することを提案します。ここで内容のメインとなるのが軍事演習の事前通告、オブザーバーの招待であります。北朝鮮の非核化をはじめとした核軍縮交渉は行われてきたことがありますが、現在でも解決には至っておりません。交渉が難航しやすい軍縮交渉ではなく、軍事情報の公開という新たな措置を導入することで7か国の軍事的な信頼関係を構築し、軍縮ではなく信頼により地域の安定化を目指すことが望ましいと考えます。しかし、軍事情報を公開していない北朝鮮はこの提案を受け入れることは難しいかもしれません。任意の国が限定的に軍事演習や情報を公開するなど、双務的ではなく片務的な措置からはじめ、ある程度信頼関係が作られたのち段階的に双務的なものにしていくのも1つの案であると考えます。

7次に会議の開催地候補としてここではモンゴル・ウランバートルを挙げたいと思います。モンゴルは中国、ロシアという大国に囲まれており両国と良好な関係を築いております。さらに日米韓とも関係良好で、北朝鮮とも緊密な状態を維持しています。一昨年、私も実際にモンゴルに2週間滞在しましたが、中ロや日韓との関係は極めて強固なものだと感じました。モンゴルは軍事的、経済的には弱い立場にありますが北東アジアすべての国と緊密な関係があり、中立的な立場をとれるという他の国にはない強みがある国であることから会議のホスト国はモンゴルが最も適当です。そして現在モンゴルは「ウランバートル対話」を主催しており、またCSCEが機構化された欧州安全保障協力機構(OSCE)加盟国であります。アメリカ、ロシアもOSCE加盟国であり、日本、韓国はOSCEの「協力のためのパートナー」であります。OSCE、ウランバートル対話の枠組みが存在していることからモンゴルが中心的役割を果たし会議を開催することが望ましいと考えます。

8最後に、欧州ではヘルシンキ宣言という第1歩からその後数十年をかけ様々な会議を重ね、少しずつ国家間の信頼関係を築いていき、東西の緊張は緩和され、中距離核兵器全廃条約締結など軍縮への道も開かれていきました。欧州は現在、民主主義等の「共通の価値」の上に安定した関係を築いています。「共通の価値」が存在しない北東アジアでは今すぐに欧州と同様な協力関係を築くのは厳しいでしょう。しかし中長期的に考えると環境問題や経済の面でも各国が協力して解決しなければならない問題が山積しており、「協調」が必要不可欠です。このような安全保障に関する対話を行い、信頼関係の構築を目指すことが対立関係にある現状に風穴を開け、未来の北東アジア安定化への第1歩になるのではないのでしょうか。この第1歩から対話を重ね「安全保障の基礎」ができれば北東アジア各国の関係性は極めて強固なものとなり「北東アジアの平和」というこの地域すべての人の「共通の利益」につながっていくのではないのでしょうか。以上で終わります。ありがとうございました。